

トラブル事象概要

資料 2-4 別添 1
(第 45 回監視円卓会議)

区分	Ⅲ (施設外への PCB 等法令で定める有害な物質の排出を伴わない排気漏洩防止設備の起動)
件 名	【増設施設】2 系プラズマ溶融分解炉排気(SN 活性炭前)オンラインモニタリング HH 警報発報による「排気漏洩防止設備(SN 活性炭 1 段→2 段)」の起動
発見日時	平成30年 2月16日 (金) 18時 39分 頃
件 名	【増設施設】2 系プラズマ溶融分解炉排気(SN 活性炭前)オンラインモニタリング HH 警報発報による「排気漏洩防止設備(SN 活性炭 1 段→2 段)」の起動
発見日時	平成30年 5月22日 (火) 10時 25分 頃
件 名	【増設施設】2 系プラズマ溶融分解炉排気(SN 活性炭前)オンラインモニタリング HH 警報発報による「排気漏洩防止設備(SN 活性炭 1 段→2 段)」の起動
発見日時	平成30年 9月 1日 (土) 20時 50分 頃
当社確認日時	平成30年 9月 1日 (土) 20時 50分 頃
発生場所	増設施設 活性炭吸着塔室(セーフティネット活性炭)(処理棟 4 階) モニタリング室(N ₂ PCB オンラインモニタリング装置)(処理棟 4 階) 管理区域内(□一般 □レベル1 □レベル2 □レベル3) ■管理区域外
事象の内容 (経緯・措置等)	<p>【概要】 2018 年 9 月 1 日 2 系プラズマ炉排気(セーフティネット(以下、「SN」という)活性炭前)のオンラインモニタリング(以下、「OLM」という)で HH 警報が発報し、自動的に SN 活性炭は 1 段から 2 段直列に切り替わり、手順に従い 2 系プラズマ炉の溶融処理を停止した。 HH 警報発報時の測定結果は 9.5 μg/Nm³(O₂ 濃度換算値)であった。</p> <p>【時系列】 (2018 年 9 月 1 日) 20:50 2 系プラズマ炉排気 SN 活性炭前の OLM で 9.5 μg/Nm³(O₂ 濃度換算値、参考:O₂ 濃度換算前 3.5 μg/Nm³)を記録、HH 警報(HH 警報設定値:9 μg/Nm³ 以上)が発報。SN 活性炭は 1 段から 2 段直列に切り替わった。2 系プラズマ炉の溶融処理の停止、2 系活性炭前後での OLM 測定に切り替わり、直ちに 2 系 SN 活性炭前後のオフライン測定を指示。 直ちに 2 系プラズマ炉の溶融処理を停止した。なお、1 系プラズマ炉は定期点検のため溶融処理は行っていないかった。 21:12 HH 警報発報後の SN 活性炭前の 1 回目の OLM で検出されなかった。その後の検出もない。 21:54~22:12 SN 活性炭前でのオフラインサンプリング測定(分析員が採取し、分析室での化学分析法による測定)を実施し、9/2 6:57 分析結果(0.7 μg/Nm³ 未満(O₂ 濃度換算値))を確認。 22:14~22:32 SN 活性炭後でのオフラインサンプリング測定を実施し、9/2 6:57 分析結果(0.7 μg/Nm³ 未満(O₂ 濃度換算値))を確認。 22:14 SN 活性炭出口で排ガスを継続的に捕集(捕集時間:13 時間 13 分、捕集時間帯:9:01~22:14)した試料の測定(以下、24 時間サンプリング測定)を実施し、9/2 6:57 分析結果(0.7 μg/Nm³ 未満(O₂ 濃度換算値))を確認。 22:40 頃 OLM 装置内部データ表示機能から四塩素化物が測定されていることを確認。 (2018 年 9 月 2 日) 9:10 頃 OLM メーカーが来所し、現場確認と OLM 装置内部データを確認。装置は正常であること、標準試料の信号強度が低下していること及び四塩素化物のみを検出していることから PCB 検出ではないと判断できるとの見解を得た。 現在、メーカーにて OLM 装置内部データの詳細確認中。 (2018 年 9 月 3 日) 10:30 2 系プラズマ分解炉運転を再開。 (2018 年 10 月 3 日~2018 年 10 月 5 日) OLM 装置内部データの表示機能(スペクトルデータ表示システム)を追加、関係者に OJT 教育を実施し、同日運用を開始した。</p> <p>【通報連絡・対外対応】 9/2 8:35 室蘭市環境課、8:41 胆振総合振興局環境生活課、8:50 道循環型社会推進課、 9:00 JESCO 本社に電話第一報連絡。 9/3 10:00 胆振総合振興局環境生活課、室蘭市環境課の立ち入りを受け、OLM メーカー報告書(速報)と SN 活性炭前後のオンライン測定結果・オフライン測定結果、24 時間サンプリング結</p>

	<p>果を報告。</p> <p>10:15 胆振総合振興局環境生活課、室蘭市環境課より、2系プラズマ分解炉運転再開の了解をいただく。</p> <p>16:00 道循環型社会推進課、胆振総合振興局環境生活課、室蘭市環境課に通報連絡票(第1報)をメールにて発信。</p> <p>【原因】 OLMメーカーより、 ・装置の異常は見られず、正常に稼働している ・警報発報時、標準試料の信号が低下していること、4塩化のPCBのみ検出していること 以上から、「標準試料の信号強度が妨害されたことが要因で発生したものと推察し、明らかなPCB検出ではないと判断する」との見解を得た。</p> <p>【対応策】 OLM 警報発報に対する対応 ・夾雑成分による影響の推定を速やかにできるよう、OLM 装置内部データの表示機能(スペクトルデータ表示システム)を追加し、運用を開始した。</p>
オンラインモニタリング異常	■なし □あり() □確認中()
漏洩検知異常	■なし □あり() □確認中()
環境への影響	■なし □あり() □確認中()
人への影響	■なし □あり() □確認中()
運転への影響	□なし ■あり(9/1 2系プラズマ炉溶融処理停止、9/3 溶融再開) □確認中()
備考(添付資料)	01 図1増設施設4階機器配置図、02 図2増設モニタリングシステムブロック図、

図・写真

